

# 帰宅困難者対策や防災意識向上に

# 松阪高が「白い小箱」導入

## 非常用 備蓄食品 全生徒職員1034人分

【松阪】松阪市垣鼻町の県立松阪高校(細見明典校長)は「日、災害時の非常用備蓄食品として「白い小箱」を全生徒および職員分となる千三十四人分を導入した。

同校は遠方からの通学生徒も多く、地震や台風など災害の規模によっては生徒が下校できない可能性がある。帰宅困難時の備えとして、また「自助」として日

常の防災意識向上を目指して、導入することとした。箱には水、缶入りパン、水砂糖、野菜ジュース、ウエットティッシュなどが入っており、期限は三年。価格は千二百円(税別)。また、箱詰めや梱包作業は近隣の障害者支援施設が行い、就労支援にもつながっている。納入した日本非常食推進

白い小箱を受け取った生徒ら＝松阪市垣鼻町の県立松阪高校で

機構(四日市市、古谷賢治)校目となる。八月二十九日代表理事)は、若い世代には、同市飯南町の県立飯南個人備蓄の啓発をしよう。高校も三百人分導入していると、昨年十一月から学校への納入を始め、同校で十一

(岩脇香織)